

本年もどうぞよろしくお祈りします

北薩教育事務所 所長 尾堂 秀一郎

令和4年11月22日、鹿児島県優秀教職員表彰式が行われた。この表彰は、学校教育における学習指導や生徒指導、進路指導、体育・保健・給食指導、特別支援教育、部活動指導、学校事務などの各分野において、顕著な実績のある教職員並びに教職員組織に対して、その功績を表彰し、併せて本県教職員の意欲及び資質能力の向上に資することを目的としている。平成20年度から始まり、今回は45人の個人と4つの教職員組織が表彰された。

その中には、北薩地区の学校に勤務する8人の先生方と1つの教職員組織が含まれている。具体的な取組については、県教育委員会のホームページにも掲載されているのでここでは省くが、各分野においてこれまで真摯に取り組んでこられ、今回表彰を受けられた先生方に、改めて心から拍手を送りたい。

また、同表彰は、今回が15回目となるが、これまでに表彰を受けられた50人以上の方々が、現在本地区に勤務しておられる。受賞時の学校から異動したり、管理職や行政職となったりされており様々な立場で変わらず尽力されていらっしゃることに敬意を表したい。

さらには、こうした表彰を受けられた先生方以外にも、様々な分野で子供たちのために一生懸命努力されている先生方がたくさんいる。毎朝、正門前の交差点で黄色い旗をもって立哨指導されている先生、より分かりやすい授業づくりのため、教材教具の開発に尽力されている先生、ICT機器を活用し、職員会議のペーパーレス化やスリム化に尽力されている先生、各種研修会に積極的に参加し、その成果を周囲に広く還元している先生、保護者や地域、生徒会等と連携し、落ち着いた学校づくりに尽力している先生・・・。

新しい年を迎え、全国総文祭やかごしま国体、全国障害者スポーツ大会かごしま大会など、全国から多くの方が本県を訪れることであろう。また、子供たちにとっては、短いけれど大切な3学期である。子供たちは、様々な思いを胸にこの節目を迎えたことであろう。先生方も同様であろう。そう言えば、3月の卒業式を彩るよう、開花時期を入念に考慮しながら花づくりに取り組まれている方もいらっしゃると思う。

コロナ禍に加え、今年はインフルエンザの流行も心配されているが、子供たちの新たな節目へ向けて、大きく飛躍する年となるよう、今年もまた全教職員が力を合わせて頑張りたいものである。



北薩地区学力アップ推進会議・オープンサポート教科フォーラム

北薩教育事務所では、毎年、学力アップ推進会議を4回にわたり開催し、学力向上や授業改善に向けた取組を行っています。

今年度は、「国語」「算数、数学」「外国語・外国語活動、英語」の3教科等に絞り、地区内の小・中・義務教育学校から教頭先生6人、各教科の先生24人の計30人に推進委員をお願いし、諸調査結果の分析を基に授業改善の視点を設定し、「主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくり」に取り組みました。

11月24日(木)に「風テラスあくね」で開催した、北薩地区オープンサポート教科フォーラムでは、各部会の研究の視点に基づいた成果を発表し、参加された先生方と活発な協議が行われました。

特に、「主体的・対話的で深い学び」を目指した指導の工夫やICTの効果的な活用について、参加された先生方から「小学校・中学校それぞれの取組が大変参考になった。」「日々の授業に生かしていきたい。」などの感想を多くいただきました。

また、県教育庁義務教育課 山崎指導主事からは、御覧いただいた感想も交え、本県の学力の状況や課題を基に、学習指導の充実や授業改善に向けた施策や取組について貴重な講話をいただきました。

このフォーラムで得られた成果を、各学校の研修体制や授業改善につなげていただくことを期待しています。



不祥事根絶を目指して

2学期は、管理職による飲酒運転、公金の着服・窃取の不祥事が発生しました。このことは、教育公務員としての信用を著しく失墜させるものであり、さらに、各学校の服務指導を担う管理職による重大な事案が発生したことは、県民の信頼を根底から揺るがす行為で、極めて遺憾であり、二度と繰り返してはなりません。

「不祥事は、いつでも、どこでも、誰にでも起こりうる。」と、教職員一人一人が当事者意識をもち、自らの姿を日々振り返り続けることが根絶につながるものと信じています。

子ども会大会・創作活動大会 及び指導者・育成者等研修会

12月3日(土)に、マルマエ音楽ホール出水で開催されました。当日は、131人の子ども会会員や指導者・育成者が参加し、優良団体等の表彰式、各子ども会の活動発表や、創作活動フェスティバル、徳田豊志氏による講話がありました。

活動発表では、薩摩川内市「市比野3区子ども会育成会」と、さつま町「南川子ども会」のみなさんが、日頃の子ども会活動の取組をスライドを基に発表しました。

また、創作活動フェスティバルでは、子ども会会員がクリスマスツリーづくりに楽しく取り組む姿が見られました。

今回の大会では、ジュニアリーダークラブ出水兵児のみなさんが運営スタッフとして活躍しました。



地区フレッシュ研修 研究授業研修(道徳科)

10月26日(水)に、さつま町立鶴田小学校と薩摩川内市立祁答院中学校で開催しました。

小学校3年「正直にする大切さ」【正直, 誠実】(授業者: 酒匂由美子教諭)、中学校1年「クラスの生活をよくするために」【公正, 公平, 社会正義】(授業者: 脇田里香教諭)の研究授業が行われ、「一人一人が考え、議論する時間を設定する道徳科の授業づくり」に向けて、協議を行いました。

参加者からは、「読み取りや押し付け道徳にならないようにしたい。」「週報に教材名のみではなく、主題名や内容項目を示すようにしたい。」「ロイロノートの活用が参考になった。」などの感想・意見がありました。



研究公開の紹介(令和4年11月までの開催分)

出水市立大川内小学校

令和4年10月7日開催

相手や他者に配慮しながら主体的に自分の考えや思いを伝え合う児童の育成
～英語によるコミュニケーション活動の工夫を通して～



「聴くは思いやり、言葉はプレゼント」を合言葉に、人権が尊重される授業づくりに取り組んだ成果が公開されました。外国語を通して、相手に配慮しながら生き生きと伝え合い、表現し合う児童の姿が見られました。

長島町立鷹巣小学校

令和4年10月28日開催

主体的・対話的で深く学ぶ子供を育てるための指導の在り方
～1人1台端末等の活用をととして～



3つの視点(「もつ」「対話する」「つなぐ」)を基に、1人1台端末の活用を中心として授業改善に取り組んだ成果が公開されました。多くの参加者の中で、1人1台端末を道具として主体的に活用する児童の姿を見ることができました。

出水市立米ノ津東小学校

令和4年11月17日開催

自己の学びを自覚し、その学びを継続できる子供の育成
～「学びの構造化」を柱とした授業改善を通して～



先生方の教材研究と児童の自己評価の振り返りで、「何を学んだか」「どのように学んだか」が、可視化できる学びでした。確かな学力に結び付く授業改善を、児童の姿で見ることができました。

薩摩川内市立手打小学校

令和4年11月25日開催

自ら気付き、自ら考え、共に学び合う子供の育成
～算数科学習における間接指導時の学び合いの充実を通して～



直接指導で課題を明確にしたことにより、間接指導時にガイドを中心に複数の考えを類型化し、考えのまとまりに見出しを付けるなど、思考力、判断力、表現力を育む姿を見ることができました。

阿久根市立折多小学校

令和4年11月18日開催

自ら学び高め合い、生きる力を育むキャリア教育の在り方
～ふるさとのおよさを生かした「あくねよかとこ教育」を中心として～

阿久根市の魅力や課題について、児童が自主的・協働的に探究することで、自分たちのふるさとの魅力を生かした「生き方」について、深く学ぶことができました。



阿久根市立鶴川内中学校

令和4年11月18日開催

自ら学び高め合い、心豊かに、たくましく生きる生徒の育成
～キャリア教育における資質・能力の向上をめざして～

生徒一人一人が、近い将来の自分をイメージして、学ぶことや働くことの意義をまとめ、発表を通して、お互いを高め合う姿が見られました。

